

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100197		
法人名	社会福祉法人 介援会		
事業所名	あおやぎグループホーム		
所在地	青森市青柳2丁目9-28		
自己評価作成日	平成31年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成31年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に立地し、地域交流や社会資源の活用ができる環境です。地域の行事や祭り等の参加で、地域の方々と交流しながら、支援に繋がっています。 医療機関からの指示を基に、利用者やご家族が安心して生活できる支援をしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手作りのパンフレットに「人間としての尊厳を大切に」という言葉を入れ、理念の中に「畏敬の念をもち、個々の人格や意思を尊重し、お互いに楽しい生活が送れるような信頼関係に努めます」「ご家族、地域の方と親睦を深めます」等を掲げ、利用者が自分らしくゆったり過ごせるよう、日々、理念を意識したサービス提供に努めている。 また、ホームは街の中心地に位置し、利便性に優れており、地域や医療機関等との連携を図り、利用者や家族が安心して生活できるように支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして理念を理解、共有し、ケアに取り組んでいる。理念は各階ホールに掲示して、毎日の仕事の前に確認し、実践している。	管理者や職員は地域の方々と親睦を深め、利用者が安心、安全に生活を送ることができるように努めている。また、ホームの理念を各ユニットのホールに掲示すると共に、日誌に綴じ、周知・共有化するための取り組みを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーへの買い物は利用者と一緒に行き、交流を図っている。また、個別での外出機会も設け、ホーム内だけの閉ざされた生活とならないように心がけている。	町内会に加入し、町内会の総会には管理者が出席しているほか、町内会の美化運動の花植えに職員と利用者が一緒に参加している。また、地域の方々にホームの夏祭りや餅つきを案内し、幅広い年代の方に参加していただき、ホームを理解してもらおうと共に、交流を図るための働きかけを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで開催する行事に気軽に参加していただいたり、ホームの内容や目的、機能等を話し、認知症について理解していただけるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、行事や活動の内容を報告したり、ご家族からの要望、意見をその後のホームの運営に活かすように努めている。	町内会長や民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、家族等が委員となり、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の状況や行事のほか、自己評価及び外部評価結果を報告し、看護師から感染症等について説明をしている。委員からは情報を提供していただきながら、今後の取り組みに繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には運営推進会議の内容を報告したり、必要に応じて密に連絡を取っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ており、ホームの実情を理解してもらおうと共に、月1回市担当課に出向き、報告や相談をし、利用者の利便性の向上や生活の質を高めるための課題解決に向けて、行政と連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じて全職員が身体拘束をしないことを理解し、意見を交換しながら取り組んでいる。	ホームでは身体拘束に関するマニュアル等を整備し、定期的な研修会で管理者及び職員は内容や弊害について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関や居室は施錠しておらず、利用者が自由に出入りできるように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対しては、全職員で言葉遣いが悪いことや無視等も虐待であることを理解し、業務に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に職員を派遣し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について管理者や職員が理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面をゆっくりと読み合わせ、説明をしている。随時、ご家族からの問い合わせに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明の際、玄関に意見箱を設置していることを伝え、気軽に活用していただくように話している。	職員は日々のコミュニケーションを大切にしており、利用者が意見や苦情を出しやすいように働きかけている。また、意見箱の設置やポスターの掲示、運営推進会議の委員に家族等の参加を得て、外部に意見を話せる機会を確保している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や勉強会等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やユニット会議等の時間を活用し、ホームの運営等について職員で意見交換をしている。また、法人の行事等で職員間の交流も図り、代表者や管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が行う個人面談等により、職員の勤務状態を公平に判定するようにし、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成しており、外部研修へ職員を派遣し、受講後は研修の記録を作成し、全職員に勉強会を開き、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターや他の事業所との交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、利用者の生活歴を把握し、利用者本位のケアを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から好みや性格、生活ぶり等の情報を聞き、共有化を図り、継続性を重視している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族との話し合いの中から要望を聞き、現在のサービス内容や入居に至った経緯を確認し、適切なサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、できる事を手伝っていただいたり、共に行っている。また、食事は職員も一緒に摂り、コミュニケーションを図り、家族のような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事へ参加していただけるように心がけている。また、近況報告を送付したり、来所時も生活の様子をお知らせし、ご家族との一体感が失われないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みの場所へ立ち寄ったり、友人の来訪時に昔の話に耳を傾けるように心がけている。	入居時のアセスメントや入居後の日々の会話の中から、利用者が関わってきた人や馴染みの場所等を把握している。また、電話の取り次ぎや手紙の代筆支援に努め、家族等の協力を得ながら美容院やお墓参り等も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の仲に合わせた席の検討や散歩等への誘い、コミュニケーションを図れる関係を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても、ご家族から介護保険や入居を希望している方々の情報を電話等でもらい、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意思や希望等に沿えるように買い物や散歩、運動、レクリエーション等を実施している。	職員は入居時のアセスメントや日々のコミュニケーションから、利用者の思いや希望、意向を把握するように努めている。必要に応じて、家族や関係者等から面会時等に情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族から、生活歴やサービス利用歴を把握するように努め、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを行い、それぞれの利用者の介護計画に沿ってケアを行っている。体調の変化等は記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングでアイデアを出し合い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者がその人らしく暮らし続けるために、日頃から利用者を十分に観察し、日常の会話から利用者の意見を聞くように努め、個別具体的な介護計画を作成している。また、定期的にカンファレンスやモニタリングを行い、職員の意見等の反映や家族等からの情報収集に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することの大切さを職員同士で認識している。また、1日2回の申し送りの際には、記録を十分に確認することを徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近況報告や面会時に日常生活の様子等を伝え、ご家族からの要望等を聞き、利用者の現状に合ったサービスを提供するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施や行事への参加、近隣商店での買い物等を通じて交流を図っている。また、自治会との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と連携を図り、月2回の往診を受けている。体調に変化がある時はその都度連絡し、指示を受けている。	利用者のこれまでの受診状況を把握し、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。ホームでは協力医療機関の往診のほか、ホームの看護師に相談できる環境にあり、受診結果の伝達方法も家族等の了解を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師や協力医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現場に申し送り、共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行ったり、医療機関に連絡し、利用者の状態について情報を得ている。また、ご家族と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者やご家族に終末期についての考えを伺い、希望に沿えるように医療との連携を図り、対応している。	ホームとして「重度化した場合の対応に係る指針」を明確にしておき、入居契約時に説明と確認をしている。また、協力医療機関からの指示やホームに看護師の配属、訪問看護も利用しており、不安な時には管理者等に助けてもらい、職員間で話し合う体制を整えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、研修を行い、緊急時に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震、夜間を想定した避難訓練を行い、消防署と連携を図り、指示を受けている。	年2回日中・夜間を想定し、火災発生や地震時の避難訓練を実施しており、利用者を適切に避難させることができるよう、消防署の指導のもと、停電を想定した階段での避難訓練を行っている。また、災害発生時に備えて、物品等の用意のほか、運営推進会議で理解・協力を得られるように協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問時のノックや羞恥心の尊重、目線に合った声がけ等を行っている。	職員は利用者の人としての尊厳を大切に、利用者の言動を否定・拒否することがないように努めている。また、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した声がけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で思いをさりげなく伺い、実現を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臥床、起床時は利用者個々の生活リズムを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際には利用者の気に入った物を選んだり、訪問美容師に来てもらい、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にできるだけ利用者の希望を反映するようにしている。買い物や片付け等、一緒にやっている。	献立は利用者の好みや苦手な物、医師からの指示にも配慮し、バランス良く栄養を摂取できるように職員が献立作成や調理をしている。また、職員と利用者が一緒に食事を摂り、楽しく穏やかな食事時間を過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量及び水分量を把握している。水分はいつでも摂れるよう、常時、お茶等を準備している。食事は病気等に配慮し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後及び就寝前に、声がけにより口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄の間隔やトイレに行きたい時のサインを共有している。また、随時、検討を行い、できる限りトイレで排泄を行えるように取り組んでいる。	利用者の排泄パターンを記録・把握し、事前誘導しながら、自立に向けた支援に取り組んでいる。紙オムツや尿取りパッド使用の利用者の歩行状態を見極め、見直し等、職員間で話し合いを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や乳製品、水分の摂取、適度な運動を心がけている。また、必要に応じて医師に相談し、下剤でコントロールすることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	できるだけ利用者の希望や体調を考慮し、入浴していただいている。職員の都合で急がせることのないよう、会話を楽しみながら入浴できる環境作りを心がけている。	日々の会話から利用者の入浴習慣や好みを把握している。週2回の入浴となっているが、希望や受診日により、その他の日でも対応している。また、利用者の身体状況に応じて、浸かり過ぎや洗身等に対して、適切な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を工夫したり、室温の調整等を行い、快適な環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に最新の薬の説明書を入れ、変更があった場合は申し送りだけでなく、利用者個々に把握できるようにしている。また、新たに薬が追加された場合等は、状態の観察を細かく行うように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いせず、利用者一人ひとりのできる事を把握し、手伝い等の声かけをして行ってもらっている。また、自分達の育てた野菜等の収穫等を行い、楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩等のほか、ドライブ等に出かけたり、地域の行事や祭り等にも参加している。	利用者の楽しみや気分転換に繋がるよう、暖かい時期には街路歩行や近くの川沿いの桜を見たり、飼っている亀を中庭で散歩させる等、日常的に外出を支援している。また、年間行事に花見やねぶた祭り観覧、同法人施設での行事への参加があり、利用者を楽しませる工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーへの買い物は職員が付き添い、楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の便りや電話等には、できるだけ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃箇所を職員で分担して行い、清潔の保持に努めている。また、温度調整や定期的な換気等も行い、心地良く過ごせるように工夫している。	ホールにはピアノや絵画があるほか、水槽や亀、犬を飼っており、利用者の癒しとなっている。調度品等は家庭的な雰囲気を保てるように配慮し、中庭に花を植えたり、手作りの飾り付けを行う等、季節を感じることができるよう工夫している。また、適切な温・湿度、明るさを保てるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼ホールにはソファや小上がりを配置し、利用者が自由に休めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染み深い物を持ち込んでいただき、居心地の良い生活を送っていただけるようにしている。	利用者が居室で居心地良く過ごせるよう、使い慣れた物等の持ち込みを働きかけ、持ち込みが少ない場合には利用者の意向を確認し、行事の写真や飾る等して、職員と利用者が一緒に利用者個々に合わせた居室作りを支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には障害物を置かないようにしている。また、利用者一人ひとりのできる事を手伝っていただいている。自立入浴を支援しており、手すりを設置している。		